ウェブ版はこちら。最新のデータとレーティングはウェブ版が優先されます
alphascope.cc/ja/reports/jp-weekly-2026-w39

日本株週報 · 2026年第39週（9/21〜9/25） · 取引日は2日

2営業日で日経平均は2.1%高、TOPIXは0.9%高、グロース250は0.8%安 **指数の上昇率は市場全体を上回り、半導体株と銀行株が主導**

日銀は9月18日、政策金利を1.0%から1.25%に引き上げ、24日から適用した。その後の2営業日で10年国債利回りは3.071%に上昇したが、円は対ドルで1.7%下落し158円81銭で週を終えた。日経平均は2.1%上昇し、東京エレクトロンとアドバンテストがそろって6%超上げた。一方、TOPIXの上昇率は0.9%にとどまり、東証グロース市場250は0.8%下落した。利上げは円の下支えとはならず、日経平均の上昇は主に半導体株によるものであった。

日経平均株価	TOPIX（東証株価指数）	東証グロース市場250	10年国債利回り	ドル/円
+2.1%	+0.9%	-0.8%	3.071%	158.81
終値 66,364.20	1306 ETF で代替	2516 ETF で代替	+9bp	週間 +1.7%（円安）

日経平均VI
20.30
週間 -3.93

01

今週の要点

日経平均がTOPIXを1.2ポイント上回り、差は一部の半導体株に起因

9月21〜23日の3連休で、今週の取引日は24日と25日の2日だけだった。日経平均は6万5018円95銭から6万6364円20銭へ1345円（2.1%）上昇し、5日続伸。TOPIXは4091.14から4128.59へと0.9%の上昇にとどまった（財経新聞・18日終値、日経・25日終値）。NT倍率は15.89倍から16.07倍に上昇した。

差の要因は一部の銘柄に集中している。東京エレクトロンが6.4%高、アドバンテストが6.1%高、キーエンスが3.9%高で、電機・精密の業種別 ETF も3.9%上昇した。日経の市況記事によると、25日は前場中ごろから東エレクやアドテストが騰勢を強め、指数を押し上げた。日経平均は株価平均型のため、値がさの半導体株の影響はTOPIXでの時価総額比率よりはるかに大きい。

木曜日は両指数の方向が分かれ、日経平均が0.8%高、TOPIXは0.4%安だった。上昇銘柄が広がったのは金曜日で、プライム市場の値上がりは1118銘柄、値下がりは382銘柄。一方でリクルートHDは5.9%安、任天堂は2.9%安、ソフトバンクグループは2.6%安、東証グロース市場250の ETF は0.8%安だった。**今週の日経平均の上昇は、日本株全体の実力を過大に映している。** 利上げ後に小型グロース株が弱含むのは、金利上昇で将来のキャッシュフローの割引が重くなるという理屈と整合的だ（推測）。

日銀が0.25%利上げ、円は158円81銭まで下落

日銀は9月18日の金融政策決定会合で、無担保コールレート（オーバーナイト物）の誘導目標を1.0%から1.25%に引き上げることを賛成7、反対2で決めた。適用は9月24日から。浅田委員と佐藤委員が反対した（日銀公表文）。公表文は、基調的な物価上昇率が2%に近づき上振れリスクがあるとしたうえで、**引き続き政策金利を引き上げていく**との考えを示した。

債券市場はこの方針を織り込んだ。今週、2年債利回りは9.9bp上昇して1.948%、5年債は11.8bp上昇して2.423%、10年債は9.0bp上昇して3.071%となり、前年末比で100bp高い。

一方、円は上昇しなかった。ドル円は156円13銭から158円81銭へ上昇し、円は週間で1.7%下落した。背景は米国にある。FRB も9月16日に0.25%の利上げで3.75～4.00%とし（FRB 声明）、24日発表の米9月 PMI が予想を上回ったことで10月の追加利上げ観測が強まった。円は24日までに8日続落した（日経）。米10年債利回りは週間16bp上昇の5.17%で、日米10年金利差は203bpから210bpに拡大した。両中銀がそろって利上げしても、金利差はなおドル有利に傾く。日銀は円安を物価の押し上げ要因に挙げており、円安が進むほど次の利上げの根拠は強まる（推測）。

銀行株1.9%高、電力・ガス3.1%安、海外投資家は2週連続の売り越し

金利上昇で業種の明暗が分かれた。銀行の業種別 ETF は1.9%高、三菱UFJ FG は2.6%高で年初来の上昇率は49%に達した。一方で電力・ガスは3.1%安、金融（除く銀行）は2.5%安、商社・卸売は1.7%安だった。日経によると、25日は中間配当の権利取りの買いも入った。9月末配当の権利付き最終売買日は28日だった。

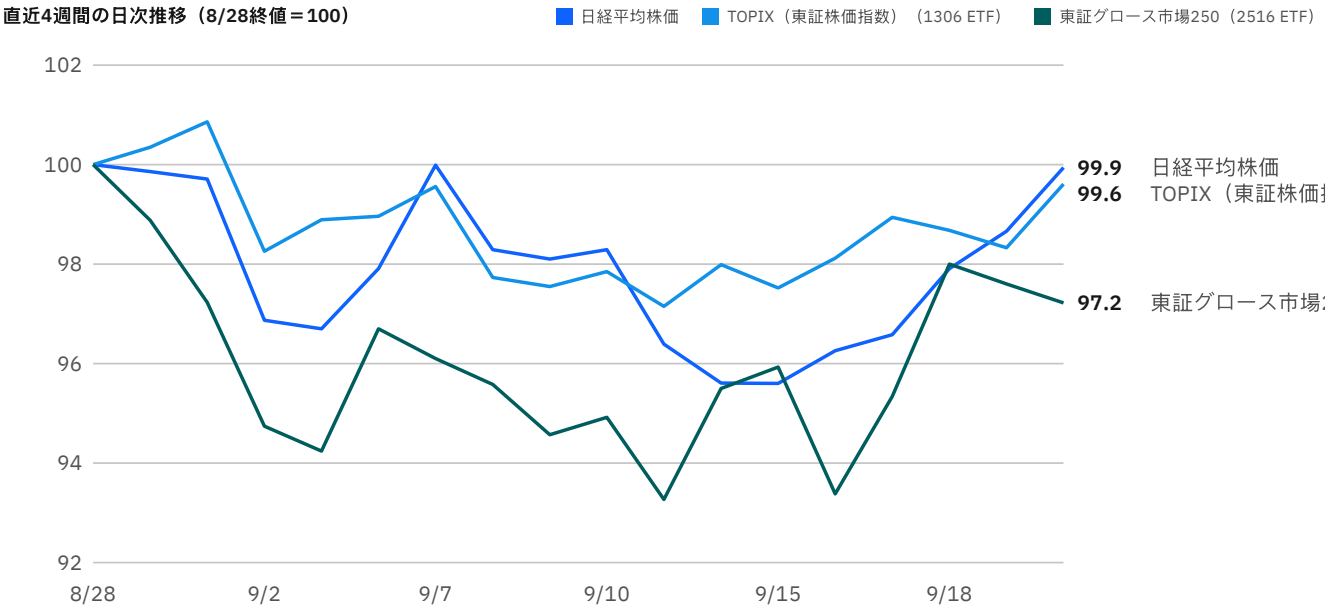
投資部門別にみると、JPX の投資部門別売買状況は9月14～18日の週までしか出ておらず、今週分は未公表だ。同週、海外投資家は6425億円の売り越しで、前週の3037億円に続き2週連続の売り越しとなった（日経）。個人は3117億円、信託銀行は2943億円の売り越し。事業法人は1663億円の買い越しで、過去6週すべて買い越している。自社株買いが中心とみられる（推測）。

> 円相場を左右するのは日銀の利上げ幅よりも、日米金利差の方向である。

02

市場動向

直近4週間の日次推移（8/28終値＝100）



今週の取引日は9/24, 9/25の2日のみのため、期間を4週間に広げた。

指数	週間	1カ月	年初来	終値
日経平均株価	+2.1%	+0.2%	+31.8%	66,364.20
TOPIX（東証株価指数）（1306 ETF）	+0.9%	+0.5%	+20.2%	430.30
JPX日経インデックス400（1591 ETF）	+0.8%	-0.3%	+20.5%	37,180.00
東証グロース市場250（2516 ETF）	-0.8%	+2.6%	+20.2%	635.80

ETF と表記した行は指数の代わりに ETF を使用（Yahoo!ファイナンスに指数データがないため）。終値は ETF の価格。

TOPIX-17業種の週間騰落

電機・精密 +3.9% 年初来 +33.5%	機械 +2.4% 年初来 +14.7%	銀行 +1.9% 年初来 +48.9%	素材・化学 +1.3% 年初来 +18.1%	鉄鋼・非鉄 +0.8% 年初来 +42.3%	食品 +0.8% 年初来 +15.6%
建設・資材 +0.3% 年初来 +3.6%	不動産 +0.2% 年初来 -7.8%	運輸・物流 +0.2% 年初来 +5.3%	自動車・輸送機 +0.1% 年初来 -4.7%	小売 -0.1% 年初来 -2.2%	医薬品 -0.3% 年初来 +3.5%
エネルギー資源 -0.6% 年初来 +25.0%	情報通信・サービスその他 -1.5% 年初来 +16.0%	商社・卸売 -1.7% 年初来 +20.8%	金融（除く銀行） -2.5% 年初来 +25.8%	電力・ガス -3.1% 年初来 +8.7%	

NEXT FUNDS TOPIX-17 業種別 ETF（1617～1633）で代替。売買の少ない ETF は指数と多少乖離することがある。

主力大型株	週間	1カ月	年初来	終値
東京エレクトロン（8035）	+6.4%	+1.8%	+64.7%	11,304円
アドバンテスト（6857）	+6.1%	-4.8%	+73.2%	34,000円
キーエンス（6861）	+3.9%	-2.3%	+40.4%	79,600円
三菱UFJ FG（8306）	+2.6%	+3.8%	+49.0%	3,714円
ファーストリテイリング（9983）	+1.4%	-4.9%	+20.5%	68,620円
ソニーグループ（6758）	+0.4%	-4.3%	-7.8%	3,710円
日立製作所（6501）	+0.2%	+4.3%	+12.9%	5,536円

主力大型株	週間	1カ月	年初来	終値
トヨタ自動車（7203）	-1.2%	-2.6%	-10.9%	2,990円
三井物産（8031）	-1.7%	+3.6%	+9.2%	5,071円
三菱商事（8058）	-1.8%	+3.0%	+35.5%	4,859円
ソフトバンクグループ（9984）	-2.6%	+19.1%	+39.8%	6,150円
任天堂（7974）	-2.9%	-8.9%	-23.5%	8,100円
リクルートHD（6098）	-5.9%	-4.8%	+84.6%	16,335円

株価騰落率（配当は含まない）。

TOPIX-17業種では、電機・精密（3.9%高）、機械（2.4%高）、銀行（1.9%高）、素材・化学（1.3%高）が上昇を主導し、電力・ガス（3.1%安）、金融（除く銀行）（2.5%安）、商社・卸売（1.7%安）、情報通信・サービスその他（1.5%安）が下落率上位となった。17業種中10業種が上昇したが、1%超の上昇は4業種にとどまる。

主力大型株の明暗はさらに大きい。東京エレクトロンとアドバンテストは今週そろって6%超上昇し、年初来ではそれぞれ65%高、73%高。リクルートHDは今週5.9%安だが、年初来では85%高を保つ。トヨタ自動車（1.2%安）とソニーグループ（0.4%高）は小動きにとどまり、トヨタは年初来10.9%安、任天堂は23.6%安。日経平均の年初来上昇率31.8%に対し、TOPIX ETF は20.2%で、差の多くは値がさの半導体・AI関連株によるものとみられる（推測）。

03

金利・為替

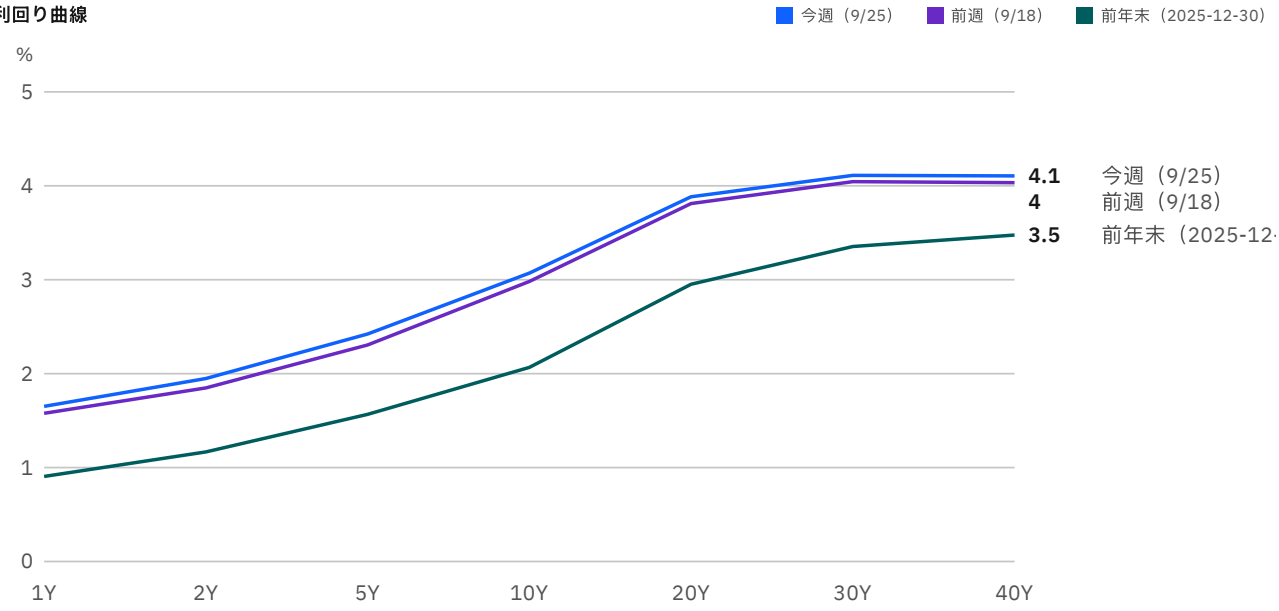
中央銀行	政策金利	直近の決定	次回会合
日本銀行	1.25%	9/18 0.25%利上げ（賛成7・反対2）、9/24適用	10/29〜30
FRB	3.75〜4.00%	9/16 0.25%利上げ（12対0）	10/27〜28

日銀と FRB の公表文より。発行時に確認。

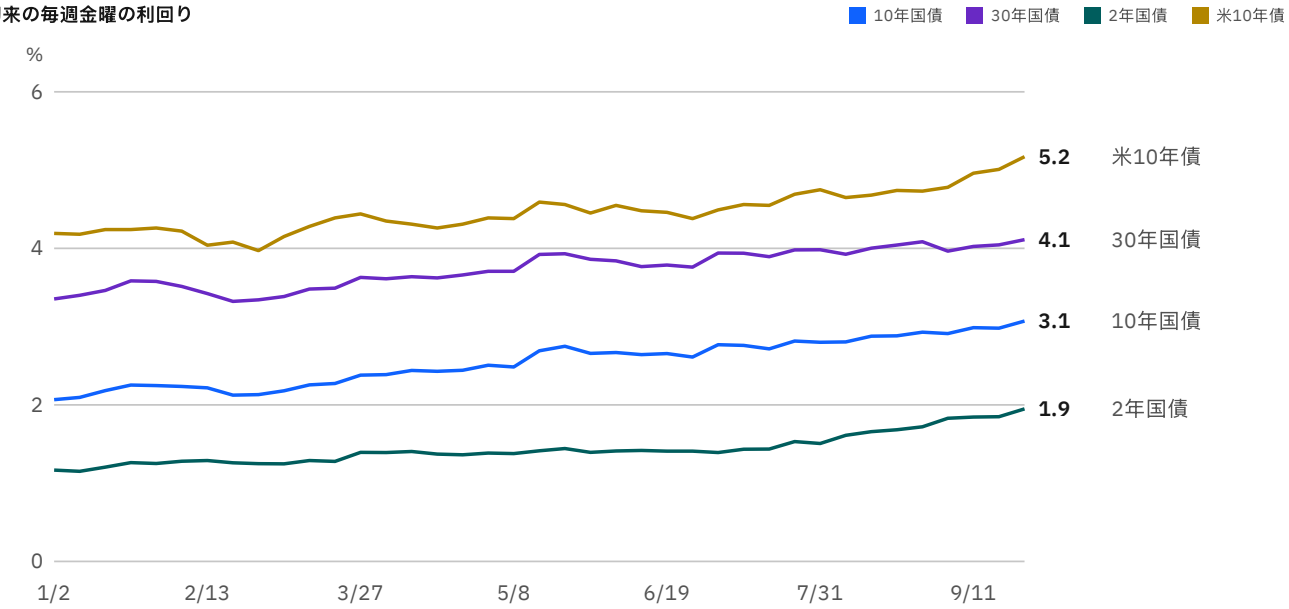
利回り	週末値	週間変化	年初来
2年債	1.948%	+10bp	+78bp
5年債	2.423%	+12bp	+86bp
10年債	3.071%	+9bp	+100bp
30年債	4.112%	+7bp	+76bp
米10年債	5.17%	+16bp	–
日米10年金利差	210bp	+7bp	–

日本国債：財務省公表の国債金利（2026-09-18〜2026-09-25）、年初来の基準は2025-12-30。米国債：FRED。

国債利回り曲線



年初来の毎週金曜の利回り



為替	週末値	週間変化	円の週間騰落	円の年初来
ドル/円	158.81	+1.7%	-1.7%	-1.5%
ユーロ/円	180.64	+0.8%	-0.8%	+1.7%
人民元/円	23.66	+1.6%	-1.6%	-5.5%

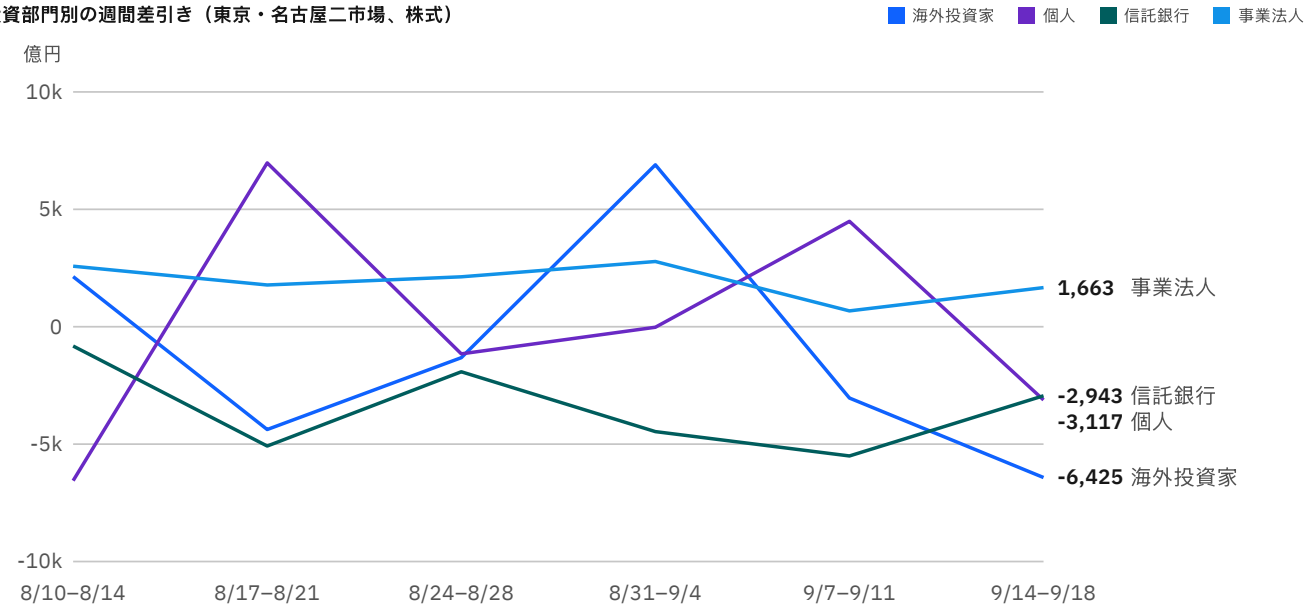
レートの上昇は円安。「円」の列は各通貨に対する円の騰落で、プラスは円高。Yahoo!ファイナンスの日次終値。

利回り曲線はベアフラット化した。2年債と5年債の上昇幅（9.9bp、11.8bp）が30年債（6.8bp）を上回り、市場は追加利上げを織り込みつつある。10年債は3.071%で前年末比100bp高、30年債は4.112%。

円は3通貨すべてに対して下落した。対ドルで1.7%、対人民元で1.6%、対ユーロで0.8%の円安。株式市場に緊張感はなく、日経平均VIは24.2から20.3に低下した。次回会合は日銀が10月29～30日、FRB が10月27～28日と、いずれも月末。円の方向はその間の米雇用・物価指標次第になる（推測）。

投資部門別売買動向

投資部門別の週間差引き（東京・名古屋二市場、株式）



最新は9/14～9/18の週（今週分は JPX 未公表）。単位は億円、プラスは買い越し。

週	海外投資家	個人	信託銀行	事業法人
8/10–8/14	+2,135億円	-6,558億円	-824億円	+2,578億円
8/17–8/21	-4,378億円	+6,978億円	-5,083億円	+1,778億円
8/24–8/28	-1,319億円	-1,156億円	-1,916億円	+2,125億円
8/31–9/4	+6,893億円	-19億円	-4,469億円	+2,780億円
9/7–9/11	-3,037億円	+4,491億円	-5,507億円	+674億円
9/14–9/18	-6,425億円	-3,117億円	-2,943億円	+1,663億円

出典：JPX「投資部門別 株式売買状況」（週間、二市場計、買い−売り）。海外投資家は法人・個人の合計、個人は現金・信用の合計。

過去6週間で、海外投資家は買い越し3週、売り越し3週で、差し引き6131億円の売り越し。直近2週は連続の売り越しだ。信託銀行は6週すべて売り越しで合計2兆742億円。株高局面で年金が資産配分を戻すための株式売りとみられる（推測）。事業法人は6週すべて買い越しで合計1兆1597億円。個人は売り買いが交錯し、6週合計ではほぼ均衡（619億円の買い越し）。今週（9月24～25日）分は例年どおりなら10月1日ごろ公表される。

05

カバレッジ銘柄

銘柄	当社レーティング	週間	対日経平均	年初来
三井物産（8031）	レポート近日公開	-1.7%	-3.8%	+9.2%

三井物産は今週1.7%安で、日経平均を3.8ポイント下回った。三菱商事（1.8%安）とともに下落率の上位に並び、商社・卸売業種も1.7%安だった。年初来では三井物産が9.2%高で、三菱商事の35.5%高に大きく後れを取る。三井物産のレポートは近日公開予定で、レーティングはその際に示す。ここでは判断を控える。

06

来週の注目材料

日付	イベント	注目点
9/30	9月末の四半期末、多くの日本企業で上期末	29日に中間配当の権利落ちを迎え、先週の権利取りの買いは一巡す
10/1	日銀短観（9月調査）8時50分、9月会合の「主な意見」も同時公表	QUICK 集計の予測中央値は大企業製造業 DI がプラス25（6月はプ
10/2	米9月雇用統計（21時30分）、朝8時30分には東京都区部9月 CPI	FRB が10月に追加利上げするかは雇用と物価次第。ブルームバーグ
10/8	FOMC 議事要旨（9月会合分、3時）	10月の追加利上げがどこまで具体的に議論されたかが、日米金利差
10/8	ファーストリテイリング本決算、日銀「地域経済報告（さくらレポート）」	ファストリは日経平均への影響度が大きく、決算は指数を動かす。
10/9	安川電機の上期決算	国内決算シーズンの先陣で、産業用ロボットと設備投資の先行指標

時刻は日本時間。

07

データの定義と出典

週間騰落率 ＝ 今週最終取引日の終値 ÷ 前週最終取引日の終値 − 1（2026-09-21〜2026-09-25）。配当落ち調整をしない終値（株価の騰落のみ）。今週は9/21, 9/22, 9/23が休場で、取引日は2日。

株価・為替は Yahoo!ファイナンス（遅延あり）。同サイトにない指数は ETF で代替：TOPIX（東証株価指数） → NEXT FUNDS TOPIX 連動型上場投信（1306）、JPX日経インデックス400 → NEXT FUNDS JPX日経インデックス400連動型（1591）、東証グロース市場250 → 東証グロース市場250指数連動型 ETF（2516）。業種は NEXT FUNDS TOPIX-17 業種別 ETF。

国債利回りは財務省「国債金利情報」（日次）、米10年債は FRED。

投資部門別売買は JPX「投資部門別 株式売買状況」（週間、二市場計）で、通常は翌週第4営業日に公表。

日銀と FRB の政策金利・会合日程は両中銀の公表文より。

今週の引用資料：

日本銀行「金融市場調節方針の変更について」（2026年9月18日）

FRB・FOMC 声明（2026年9月16日）

日経「日経平均5日続伸、終値は6万6364円」（2026年9月25日）

日経・市況（半導体株と権利取りの買い、2026年9月25日）

財経新聞・18日の市況（日銀利上げ通過で6万5000円回復、2026年9月18日）

日経「円相場、8日続落　一時158円台半ば」（2026年9月24日）

日経「海外投資家が2週連続売り越し　6425億円」（2026年9月29日）

JPX「投資部門別売買状況」

財務省「国債金利情報」

日経・9月短観予測（2026年9月29日）

日本銀行・公表予定、FRB・会合日程、米労働統計局・公表予定

ファーストリテイリング IR カレンダー、安川電機・決算発表予定日

ブルームバーグ・米9月雇用統計の予想（2026年9月26日）

本週報は公開市場データに基づくリサーチ資料であり、一般の読者を対象としている。個人の財務状況を考慮したものではなく、投資助言を構成するものではない。データには遅延があり、原資料の数値が優先される。

データ時点 2026-09-25 · 雅虎财经（行情、汇率）； 财务省（日本国债收益率）； JPX（投资者类别买卖）； FRED（美债收益率）； 日银、美联储公告

AlphaScope · alphascope.cc/ja/reports/jp-weekly-2026-w39 · 2026-10-01 作成

財務データは SEC EDGAR の原資料から。株価データには遅延があり、出典は各レポートに明記しています。

レーティングはすべての読者に向けたリサーチ上の見解であり、個人への売買の推奨ではありません。投資にはリスクがあります。最終判断はご自身で。